第３　問題作成部会の見解

１　出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

○　地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて，地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を求める。『地理総合，地理探究』では，「地理総合」で学習したことと，それを基に「地理探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては，地域を様々なスケールから捉える問題や，地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり，資料を基に検証したりする問題，系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

２　各問題の出題意図と解答結果

第１問　（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため，省略）

第２問　（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため，省略）

第３問　学習指導要領「地理探究」の「Ａ　現代世界の系統地理的考察」の「(1) 自然環境」に関する大問である。世界の自然環境とそれに関連する地球環境問題や自然災害を題材に取り上げ，分布図，グラフなどの資料から，自然環境の特色に基づいて空間軸と時間軸を踏まえ多面的・多角的に考察する力を判別することを目的としている。まず，植生の分布を決定する地形・気候といった自然要因との関係，そして地域ごとの特徴的な地形の数値的な理解と形成要因について考えさせる。そして，自然環境の変動と人間社会との影響について考えさせている。最後に自然災害（地球温暖化も含む）について，それがもたらす人間社会への影響について総合的に考えさせることを狙いとしている。大問全体の平均点は標準的であった。小問の正答率は，問２が低く，問１と問５が高かった。それ以外は標準的であった。問６は，日本の国土像を構想するに当たり，地図に防災情報を重ね合わせて何がわかるかという技能と論理的な思考力を問うた。

第４問　学習指導要領「地理探究」の「Ａ　現代世界の系統地理的考察」における「(2) 資源，産業」に関する大問である。具体的には，各国のエネルギー利用の動向を把握した後に，工業立地の原理と生産，流通，販売に関わる産業立地傾向について考察した。その後，国際観光収支，ファブレス企業の実態から，グローバル展開する産業の地理的特性についての理解を問うた上で，最後に，日本の製造業の国際的な位置付けを考える問いを展開した。問１は，国別の発電方式別発電量の変化について経済発展とエネルギー政策との関係を考察する力を，問２は，各種工業の立地指向を輸送費の観点から考察する力を，問３は，繊維・衣服を題材に，いわゆる「川上」から「川下」において産業立地が異なることを考察する力を，問４は，各国の事情を踏まえたインバウンドとアウトバウンドの状況の違いを考察する力を，問５は，ファブレス企業の出現の理由とその実態についての理解力を，問６は，日本の国土像を構想するに当たり，製造業の貿易構造を基に，国際分業における日本の製造業の国際的な位置付けについて考察する力を問うた。基本的な知識を基に解答するものが多く，難易度は標準的であった。

第５問　学習指導要領「地理探究」の「Ａ　現代世界の系統地理的考察」における「(4) 人口，都市・村落」に関する大問である。学習プロセス型の設問とし，「産業構造の高度化による都市の変容」を主題に，生徒が授業において資料やデータを集めながら主体的に学ぶ場面を想定して問いを配置した。問１では，産業構造の変化による空間変容について，大都市圏と地方圏と

の差異についての理解度を判別することを企図した。問２では，産業構造の変化が進む中での都市圏の変容について，人口に関するデータに基づいて考察できるか問うた。問３では，産業構造が高度化した国における，産業の発展段階と都市人口との関係についての理解度を，そして問４では，東京の情報関連産業を事例に，脱工業化が進む中において，成長がみられる産業とその産業が都市に集中する背景についての理解度を判別することを企図した。問５では，世界都市の空間的特徴についての主題図を基に考察できるか問うた。各小問の正答率をみると，問３が低かった一方で，問４と問５が高かった。特に問５の正答率が高かったことで，大問全体の得点率はやや高くなった。

第６問　学習指導要領「地理探究」の「Ｂ　現代世界の地誌的考察」における「(2) 現代世界の諸地域」に関する大問である。環インド洋地域の自然環境，歴史，生活文化及び人・物の移動を通して形成された地域の結び付きを題材に取り上げた。問１では，インド洋沿岸地域に広く災害をもたらすサイクロンの発生及び移動の仕組み，問２では，同地域における自然環境と農業との関係，問３では，環インド洋地域における人・モノの移動を通した地域の結び付き，問４では，宗教の分布・多様性の歴史・文化的な背景，問５では，インド洋上に位置する小規模な島嶼国の成り立ちなど，環インド洋地域の現代的課題を含む総合的な理解を求めた。正答率は，問１がやや低く，問５はやや高かったが，大問全体では適切な得点率であった。

３　自己評価及び出題に対する反響・意見についての見解

第１問　（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため，省略）

第２問　（『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため，省略）

第３問　大問全体として標準的な難易度の問題であったと考える。また，外部団体からは，世界の自然環境と自然災害に関して，地理的事象に関する知識や地理的技能を基に，場所や，人間と自然環境との相互依存関係などに着目して，多面的・多角的に考察する問題で構成されていると評価された。問１は，資料から経緯線に沿った正規化植生指数の分布の違いを読み取り，気候や地形の特徴を踏まえて植生の分布を考察する良問と評価された。問２は，地形の成り立ちや特徴などの知識を結び付ける問題であり，工夫された問題ではあるがナミビアの地形がイメージしづらく難易度は高いとの評価を得た。問３は，エルニーニョ現象発生時の海面水温の平年値との差を示した図とペルー海流の流向に関する問題であり，知識のみで解答できる問題との評価を得た。問４は，先進国と発展途上国とで自然災害の現れ方が異なる点について，思考力を働かせる良問と評価された。問５は，ヒストグラムの読み取りと，気候に関する知識を基に，地球温暖化の地域的差異について考察させており，難易度は高いが良問との評価を得た。問６は，地図に情報を重ね合わせて何がわかるかという技能と論理的な思考力を問う良問であるとの評価を受けた一方，内容的には地図やＧＩＳを学習内容の中項目として扱う「地理総合」での出題がより相応しいとの指摘があった。全体として，良問と判断されたものが多かったが，知識の有無を問う問題があるとの指摘があったので，より思考力を問うバランスの良い出題を検討していきたい。

第４問　大問全体として基本的な知識を問い，難易度は標準的であったと考える。また，外部団体からは，基本的な知識や思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されており，出題形式は，多様な資料が用いられ，身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的に考察する適切な問題と評価された。問１は，各国のエネルギー政策に関する知識を基に，発電構成の変化について考察する問題，問４は，国際観光収支の特徴と変化を考察する問題と評価され，問３は，繊維・衣服の生産から消費に至る各過程に関する主題図を読み取り，工業立地

や流通業などの地理的事象に関する知識を基に，繊維・衣服産業の分布の特徴を考察する良問と評価された。他方，問２は，取り上げられた製造業のイメージがもちにくく，説明の分量が多いことが指摘され，問５は，資料の作成と選択肢について，地理的な見方・考え方をより働かせて考察するような工夫が求められた。問６も，中間財と最終財の貿易収支の差異に着目させた問い方の工夫が求められ，今後は，これらの点を踏まえた作問に努めたい。

第５問　小問ごとに正答率に幅があったが，大問全体での正答率はやや高くなった。また，外部団体からは，学習プロセス型である本設問に関して，全体については，日本の都市の変容について産業構造の変化と関連させる視点で日本と世界からバランス良く出題されているとともに，全小問が基本的な知識と図表を用いて思考する問いとなっているとの評価を得た。小問別では，問１は，時間軸と空間軸がどちらも用いられている点や，資料がコンパクトにまとまっている点が評価された。問２は，共通テストらしい問いであるという評価の一方で，二つの要素を掛け合わせる形式の問い方ではなく，より簡便な形式を工夫する必要があると指摘された。問３は，途上国など，別の傾向で推移してきた国を含めることや，都市人口率で解けてしまう点について改善の必要性が指摘された。問４は，現代の世相が表れている示唆的な資料であると評価された。問５は，解答に若干時間を要すると指摘された。問５については平易であると指摘されたが，大問全体としては，基本的な知識が問われているものが多く，難易度は標準的であるとの評価であった。こうした評価を踏まえ，今後，出題形式や難易度のバランスにも配慮しつつ，思考力を問うことができる問題作成に努めたい。

第６問　小問ごとに正答率に幅があったが，大問全体では適切な正答率であった。また，外部団体からは，環インド洋地域に関して，多様な資料を読み取り，対象地域に関する知識を基に，思考力，判断力を測る問題で構成されており，また標準的な難易度の設問で構成されているとの評価を得た。問１は，熱帯低気圧が発生する緯度帯を理解できていれば解答に結び付けやすく，基本的知識を反映した問題と評価された。問２についても，気候帯，緯度帯が理解できていれば，解答に結び付けやすく，平易な問題と評価された。問３は，シンガポールとインドネシアの間の輸出額と移民数について，両国間の経済的水準や人口などからの判断が必要で，難易度は高いが，思考力と判断力が問われる良問であると評価された。問４は，日頃から地図を用いた学習を行っているかを問うことができる良問と評価されたが，対象地域における言語や宗教などの歴史的つながりや地域的広がりなどについて，資料を基に考察させるような問い方の工夫がほしいとの指摘もあった。問５は，モーリシャスという受験者にとって馴染みの薄い国が問われたが難易度は標準的であると評価された。全体として問題の幅が広がった反面，系統的な分野からの出題との差異があまりみられないとの指摘もあり，今後も検討を続けていきたい。

４　ま　と　め

今後の問題作成に当たっての留意点として以下に記す。

(1)　「地理探究」の学習指導要領おいて育成を目指す資質・能力を測るための良問で構成されているとされた。また，教科書で扱われている学習内容を逸脱することなく，新課程で求められる資質・能力の主軸として位置付けられる「知識・技能」「思考力，判断力」が重視された共通テストに相応しい標準的なレベルの問題であったと評価された。一方で，解答時間への配慮や，簡易な文章表現について継続的な改善が要望された。また，新課程の目玉でもある「課題の発見→要因の分析→解決策の構想」という探究プロセスを意識した大問構成や問いが少ないと指摘された。国土像をテーマとした問題の問い方に対する指摘もあった。これらの課題への対応も図りつつ，地理的な見方や考え方を働かせて解答に到達できるような問題作成を引き続き検

討していきたい。

(2)　難易度については平均点が 57.48 点となり，適正な難易度であった。なお,『歴史総合，世界史探究』よりも低く,『歴史総合，日本史探究』よりも高い点数となった。全体的にやや難易度が高く，学習量に対して高得点が取りにくい状況が指摘された。『歴史総合，世界史探究』,『歴史総合，日本史探究』とのバランスに配慮しつつ，引き続き適切な難易度の問題作成を検討していきたい。

(3)　多様な資料を活用しつつも，図表等についてはおおむね適切に使用されていると評価された。一方で，受験者にとって初見となる資料が付された問題がほとんどであり，資料の意味や特徴を理解する上で時間を要する点について懸念があった。これらの課題については今後も継続して検討を重ねていく必要がある。

(4)　出題のバランスについては，各大問とも「地理探究」の大項目及び中項目の内容が反映されたものになっているが，中には「地理総合」と「地理探究」各々が扱う領域の接点となる内容のものや，同一科目内の二つの大・中項目が融合した内容のものもみられ，総合科目としての地理の性格が反映されているとされた。ただし，組合せ形式の問題が多いなど，解答時間を配慮するよう要望が寄せられた。地球的課題や地域の抱える課題とその対応など，現代社会への関心をもてるようなテーマ設定による問題作成を含めて，引き続き十分検討していたい。

(5)　全体として，高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは学習指導要領の趣旨に沿っており，高等学校での学習内容を基にした思考力を問う問題や探究活動の過程を再現する問題が随所にみられ，高等学校における授業改善の指針となる試験であると評価された。今後も地球上の様々な事象に対して，地理的見方・考え方を養い，事象の意味や将来像を自然と想起してしまうような，現場の教員の手本となる問題作成への要望も寄せられた。高等学校で扱う内容の知識・技能を踏まえた地理的な思考力，判断力を多面的・多角的に問うとともに，学校教育での目標になるような問題作成に取り組んでいきたい。